広土会新聞

第4号

1998.3.20 発行
発行所　広島工業大学　広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
ＴＥＬ082-921-3121

広土会会長
皆田 理

広土会会員の皆様方におかれましては益々ご健勝，ご活躍のこととお喜び申しあげます。

顧みますと昨年は，新年早々１月２日の島根県沖でのロシアタンカー重油流出事故に始まる幾多の災害・事故，神戸の小学生連続殺傷事件，公共工事コスト縮減策の実施，総会屋疑惑による第一勧銀や証券会社トップの辞職・交代，中堅ゼネコン数社の会社更生法の申請など，国際面では香港の中国返還，果てはダイアナ妃の事故死など枚挙に暇がないほど慌ただしい年ではなかったかと思います。本年に入っても，種々の大きな事件がマスコミを通して流れておりますが，年の初めにあたり，本年は穏やかな年であってほしいと思うのは私だけでしょうか。

さて今年は，広土会にとって記念すべき年であります。広土会は土木工学科１・２期生の有志の皆様方の努力によって，1968年10月に誕生し，今年で30周年を迎えることになります。これは初代桜井季男会長を始め，歴代の会長並びに会員の皆様方のご支援の賜物であり，深く感謝の意を表す次第です。

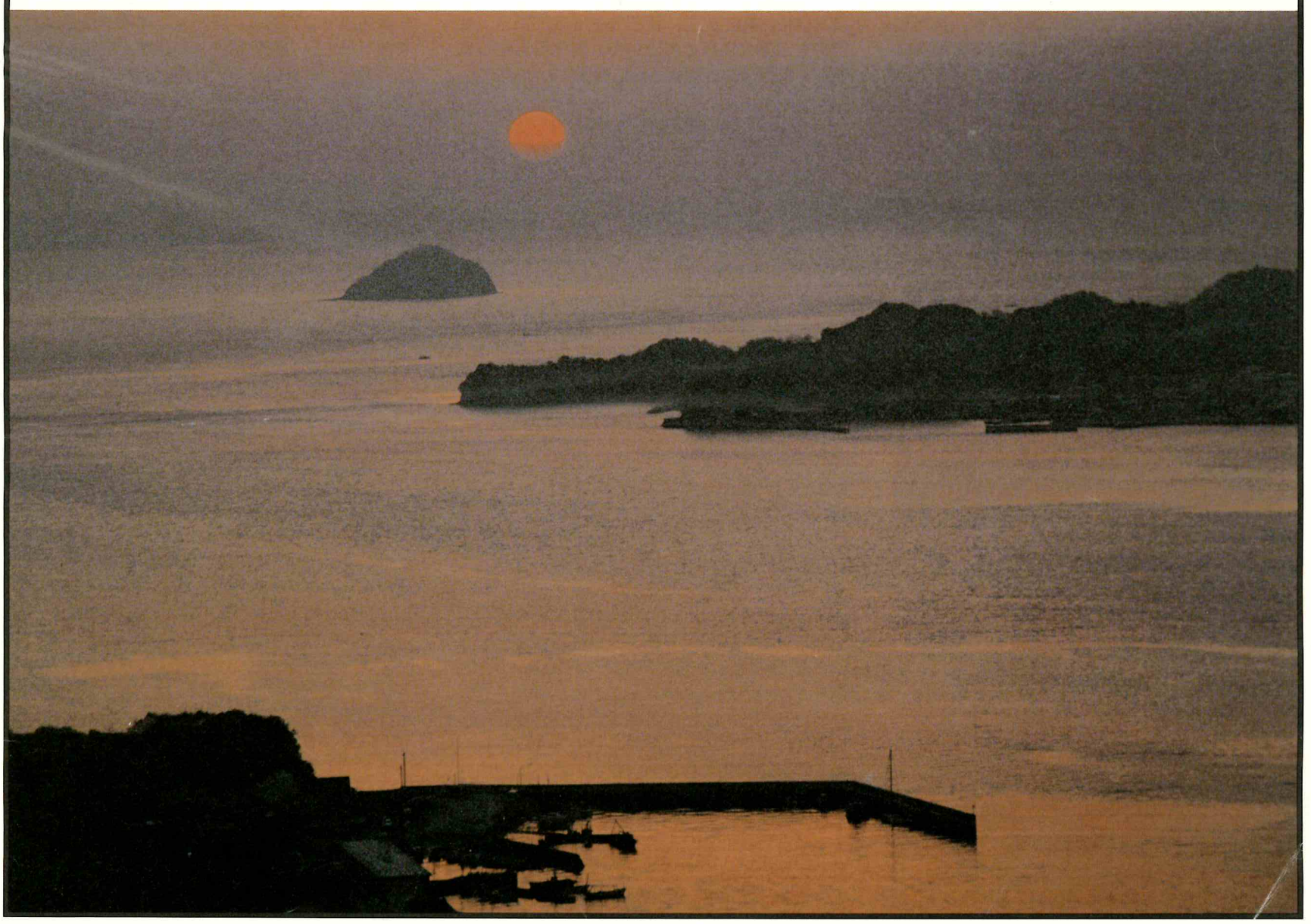
この間，土木工学科を卒業された広土会員は約3000人に昇ります。手元にある資料から大雑把に卒業生の職種の分布を拾ってみますと建設業，設計コンサルタント，製造業，公務員および自営業でそれぞれ約37%，15%，３%，30%および４%となっております。残りの約10%の会員は連絡がとれず所在不明の方々であります(広土会の名簿で連絡先が空欄になっている会員の所在をご存知の方は，広土会本部まで連絡していただければ幸いです)。日本全国はもとより，海外においても，広土会員がそれぞれの分野で活躍されていることは，土木工学科教職員はもとより広土会と致しましても大変心強い限りであります。しかしながら，会員が多くなればなるほど，母校や広土会の情報を会員の皆様に届け難くなることも事実であります。広土会本部としましては，この対応策の一つとして，年一回支部長会議を開催し，大学の現状並びに広土会に係わる予算・年中行事あるいは広土会の主幹案件について審議していただき，その情報を各支部に所属している会員の皆様に流していただくようにお願いしてまいりました。また，同時に，各支部からのご意見やご要望を拝聴し，広土会活動の活性化を図る資料にさせていただいております。

卒業生会員皆様方の社会におけるご活躍こそが広土会の活性に直接的につながり，将来社会に出ていく学生に対しても大きな刺激となり，目的意識の確立や専門知識を修得するための原動力になるものと確信しております。

ご承知の方も多いかと存じますが，本学土木工学科は，平成９年４月より建設工学科に，また，都市工学コースは社会建設工学コースに名称が変更されました（建築工学コースは従来通り）。したがって，平成13年３月には建設工学科第一回卒業生として，社会に送り出すことになります。これを機に，広土会も会員の皆様方のご意見・ご要望を拝聴しつつ新広土会として対応して行く必要があります。卒業生会員各位におかれましては，土木系の新卒業生は勿論，建築系の卒業生の後輩に対しても暖かいご指導，ご支援をいただきますようお願いいたします。

今回の広土会新聞は，従来から継続しております支部活動の照会と広土会30周年記念事業に関する記事を中心に編集しております。

「広土会会員の皆様，30周年記念会には，
700名以上のご出席を予定しておりますので，
ご配慮を賜りますよう切に
お願い申し上げます。」



支部だより

関東支部　梶野良夫
卒業年：昭和45年２期
住所：〒274-0823 千葉県船橋市二宮１－63－12
TEL・FAX：0474-66-1610
支部構成人数：74名
支部結成年月日：S53年度
支部の領域：関東周辺

広土会も来年度に30周年を迎えるとのことですが，大変おめでたいこととお喜び申し上げます。思い返せば，私が在学中に広土会が発足し，初代会長の故桜井先生から，土木屋は会員同士の親睦が大切である。その為に広土会があるんだとのお話を数10年前にお聞きしたことを思い出します。今後も支部として広土会発展の一助になりたいと願っております。

さて，恒例の広土会関東支部総会を第13回として平成９年10月24日，東京お茶ノ水駅近くの東京ガーデンパレスで，大学より伊藤先生をお迎えして開催しました。参加者は16名といささか少なくなりましたが，近況報告，情報交換をしながら約２時間の会は終了しました。今回もというか，若い人の参加が少なかったようです。支部総会は例年同じ場所で開催しておりますので，都合の良い時には是非参加してみて下さい。その為，連絡先等を支部長もしくは役員までご一報下さい。

昨今，厳しい世間になっているのは報道のとおりであり，切実に感じている方もいると思います。安全だと思っていた土地と銀行が過去のものとなり，世の中頼るものは何なんだと模索中ではないでしょうか。我々土木建設業界の多くは，これまで景気の良い時も悪い時も政策としての公共事業を実施してきたわけですが，御存じのとおり，政策も見直されて，不急と判断された事業は休止になりつつあります。ただし本当に必要と判断されたもの，維持補修関係は落とせないはずです。こんな時こそアイデアと実力がある人（企業）が求められる世の中なのかと思います。

最近ビッグプロジェクトの内，関東の東京湾アクアラインが平成９年12月18日，本四連絡橋の内，明石海峡大橋が平成10年春に開通だそうです。今の経済情勢からすると，今後の計画の内，どれが実施されるか不透明ですが，関東ではもう一本の東京湾横断道路として，千葉と三浦半島を連絡する湾口道路が計画されています。

では，広土会会員の皆様のご健勝をお祈りします。

Ｈ９．10．24　13回広土会関東支部総会　東京ガーデンパレス

島根県支部　小糠弘昭
卒業年：昭和45年２期
住所：〒690-0887 松江市殿町１番 島根県企画振興部要伊川神戸川対策課
TEL・FAX：0852-22-5088
支部構成人数：約60名
支部結成年月日：島根県支部Ｈ７年10月28日
（山陰支部　S54年７月24日）
支部の領域：島根県

会員の皆様，広土会30周年記念おめでとうございます。

30年前の日本経済は高度経済成長時代であり，社会資本整備である公共事業も今日まで着実に整備されてきました。

しかし，バブル経済崩壊以降，景気は低迷し，大手企業は不良債権を抱え，昨年には考えられなかった大手金融機関の相次ぐ倒産等，今日，我々を取り巻く社会環境は大きく激変しています。

国の財政構造改革で公共事業予算の削減が打ち出され，各種の長期計画の２年間延期，平成10年度公共事業予算の対前年度比７％減など，かつて経験したことのない厳しい改革が示され，建設業界にとっては非常に厳しい時代になってきています。

また，世界的規模での地球温暖化問題に象徴されるように，環境への取組みが問われています。

土木施設についても，我々人間生活の安全と利便性のために，これまで数多くの施設が整備されてきましたが，環境に対する配慮が十分でなかったため，その結果，環境，生態系が犠牲にされてきました。

昨年，河川法が改正され，目的に「治水」，「利水」に加え，「河川環境」の整備と保全が位置付けられる等，これからの整備にあっては，人と自然が共生できる考え方にたった整備が不可欠となっており，これまでの規制や基準にとらわれない新しい発想と取組みが求められています。

こうした時期，来る７月に，30周年記念行事が開催され，各地域，各職場で活躍されている会員が集い，相互に親交を深め，情報交換を行うことは激動する社会情勢にあって非常に有意義であります。

広土会の更なる発展のためにも，多数の会員の方々が参加し，記念行事を成功させましょう。

島根県支部の総会が平成８年，９年度と開催できず，支部の会員の皆さんには大変申しわけなくお詫びいたします。

今年は，是非開催したいと考えております。

なお，昨年10月には，支部（９名）と廿日市地域（36名）のゴルフ愛好家による合同親睦コンペが金城カントリークラブで開催されました。コンペには鈴木先生，皆田先生も参加頂き，秋空のもと盛大に行われました。開催に当たって色々と準備頂いた幹事さんに感謝申し上げます。

関西支部　今田　実
卒業年：昭和47年４期
住所：〒551-0021 大阪市大正区南恩加島６－２－21，片山ストラテック㈱内
TEL・FAX：06-552-1237　552-6677
支部構成人数：140名
支部結成年月日：S46年８月
支部の領域：大阪，兵庫，京都，奈良，和歌山，滋賀

来年，創立30周年を迎えると聞いて，改めて振り返ってみると，歴史を感じる長さである。毎日の仕事に追われ，過去を振り返る余裕がないのだと思う。

阪神大震災から三年が経過したが，その時のショックは忘れることが出来ない。そして短期間に公共施設を復興させた建設業界の力にも驚かされた。復旧した高速道路を走っていると，ほんとに大震災があったのかなと思うときもある。

関西支部の会員も現在では140人程度になったが，建設会社の現場関係が多い為か，春の新会員歓迎花見会や夏の総会に出席される人は少なく，だいたい同じ顔ぶれになってしまう。

今日，品質管理や環境対策，また資源の再利用等が話題になっている。これからは，会社の専門分野の仕事だけすればよいではすまされない時代になると思う。発想の転換により，異業種との共同開発による新材料の開発，あるいは新工法の確立などが必要になっている。その為には，情報の収集，整理，分析が重要である。大企業では，コンピュータによるインターネットやネットワークで情報交換を行い，敏速な対応で業務の効率を上げている。

広土会の会員も全国で約3500人と聞いているが，本部・支部・会員のネットワークが確立出来れば情報が有効利用でき，会員同士が身近になり広土会の発展にもつながると思う。これからは，若い会員が積極的に参加し行動して，広土会を盛り上げてほしいと思います。

関西支部の支部長および副支部長は，下記になりましたので，今後ともよろしくお願いいたします。
支 部 長　今田　実（第４期卒業）工事本部 工事部
副支部長　岡崎賢二（第３期卒業）生産本部 製造３部

阿讃支部　松山憲一
卒業年：昭和44年１期
住所：〒767-0032 香川県三豊郡三野町下高瀬2215
TEL・FAX：0875(72)0623
支部構成人数：約50名
支部結成年月日：
支部の領域：徳島県（阿波）香川県（讃岐）

広土会会員の皆様，お元気ですか。

広土会30周年事業の７月開催に向けて，広島で準備をしていただいています各委員の皆様には大変ご苦労でございます。広土会30周年記念行事は，会員の皆さんが広い範囲での情報交流を密に行える良い機会であります。開催日の７月12日には，皆が抱えている問題，苦労話，趣味や楽しい遊びの話，学生時代の思い出など，大いに語らいましょう。

阿讃支部におきましては，鈴木先生が大学主催の教育懇談会で来られた昨年の11月８日に，高松ワシントンホテル内チャイナテーブルにおいて，支部総会を開催いたしました。

13名の支部会員各位が駆けつけていただき，初めて顔を合わす人，懐かしく再会された人それぞれが，和やかに歓談され，親睦と交流を図られたのではないかと思います。

支部活動としては，香川・徳島との阿讃交流も課題の一つであり，まだまだ本格的に活動ができていないのが実情であります。今後とも，会員相互が更なる交流と親睦が図れますよう努力して参りたいと考えておりますので，ご指導，ご支援をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが，寅年のこの一年が，会員の皆様にとってすばらしい年でありますようお祈り申し上げます。

広島支部　景山敏則
卒業年：昭和44年１期
住所：〒735-0026 安芸郡府中町桃山二丁目10－１
TEL・FAX：082-282-5895
支部構成人数：
支部結成年月日：S45年
支部の領域：広島県及びその周辺に住所もしくは勤務先を有するもの

「広土会」会員のみなさんこんにちは！

こちらは，広土会広島支部の事務局です。

広島支部では，これまで滞っていた支部活動を再生させるために，平成８年７月に久しぶりの支部総会を開催しました。

支部総会では，新しい支部長として広島県庁に勤務されている景山敏則さん（１期生）を選出し，各役員も刷新し，フレッシュなメンバーとして再出発しました。

広島支部では，地域が広く，会員の数も多く全体の会員数が把握できていないという現実にもかかわらず，当日は300名をこえる会員の出席をもって盛大に行われました。

さて，「広土会」としましては，昭和43年10月に発足して以来，本年度で創立30周年を迎えるため記念事業を企画しています。

今から10年前の創立20周年記念事業（昭和63年11月）では，遠来からの会員の出席もあり，450名の多くの出席をいただきました。

「広土会」
創立30周年記念事業について

30周年記念事業委員長　**景 山 敏 則**

「広土会」は広島工業大学土木工学科の卒業生在学生及び教職員で構成された組織であり土木技術の向上，親睦等を図ることを目的に昭和43年10月に結成されて以来，本年度で30周年を迎えるに至っております。

現在，大学内に広土会本部をはじめ，全国各地に12支部を擁し会員数も3，500余名の大きな組織に発展しており，地元広島はもとより，全国において，建設業界をはじめ数多くの分野で指導的役割を果たすとともに，地域社会の発展に大きく寄与しているところです。

この活躍の原動力は，会員相互の努力あってのことですが，地域社会をはじめとする関係各位のご支援やご協力の賜であることは，申し上げるまでもありません。

「広土会」の記念すべき30周年を迎え，より一層国際社会に向け飛躍しようとしているところであり，やがて訪れる21世紀の明るい未来に希望を持って，力強く歩んで参りたいと存じます。

会員皆様のご協力とご出席を賜りますよう心からお願いいたします。

「広土会」創立30周年記念事業の予定は次のとおりです。

《記念講演会・記念パーティ》

日時：平成10年７月18日㈯　18:00～

場所：リーガロイヤルホテル
（広島市中区基町6-78）

会費：10,000円

記念講演会　神田　三亀男（広島民俗学会常任理事）
テレビ・ラジオでおなじみの神田先生による記念講演を予定しています。

《記念誌・会員名簿》

創立30周年記念誌や会員名簿の発刊を予定しています。

交通機関と所要時間

◆ＪＲ広島駅より車で約10分

◆広島空港より車で約55分

◆宇品港より車で約17分

お問い合わせ先

広土会30周年記念事業事務局
〒730-0011
広島市中区基町10－52
広島県土木建築部空港港湾局港湾課内
（担当　濱田弘治）
TEL.082-228-2111（内線4044）

平岡　敬（現広島市長）さん，加藤　新さんの記念講演会，記念祝賀大懇親会，記念誌の発行がメイン行事でございました。

本年，創立30周年になりますが，この記念事業は広島支部を母体とする卒業生を中心とした企画・運営で実施していただきたい旨，広土会の皆田会長から依頼がありましたので，快く引き受けることといたしました。

平成９年３月には，創立30周年記念事業が意義あるものとして成功させるべく，実行委員会も発足させ，協議を重ねております。

広島支部の事務局として，会員皆様のご協力やご出席を心よりお願い申し上げます。

広島県北支部　和田一雄
卒業年：昭和47年４期
住所：〒739-1804 高田郡高宮町房後125－20
㈱和田組
TEL：0826-57-1314㈹　FAX：0826-57-0400
支部構成人数：30名
支部結成年月日：
支部の領域：広島県北　２市５郡

支部活動状況
１）定期総会（毎年１回１月実施）
２）会員親睦旅行（過去１回1995．12月青森県三沢市，小牧温泉）
３）広土会会費の一括納入（支部会員全員）

広土会創立30周年おめでとうございます。私共，広土会広島県北支部は，1989年８月30日鈴木，島両先生をお迎えし会員数27名で結成大会をし，今年で９年目になります。現在会員数30名です。

平成７年度より土木工学科も建設工学科に名称変更され，何か戸惑いを感じております。しかしながら，広土会は，何ら変わりない広土会であって，又そうあって欲しいと思います。なぜなら私共にとって，それは，心の支えであり恩師，会員相互の信頼と団結の上に存在するものと思われるからです。

1997年７月１日，川﨑学長先生を始め各学科，役員の諸先生を，お迎えして広島工業大学同窓会広島第一支部の発会式が盛大に開催されました。この結成にも広島県北支部の会員が基盤となり，各分野で頑張って頂いた結果であります。

土方気質（ドカタカタギ）は，過去，現在，未来と時代の変遷に伴い急激な変貌を遂げると思われますが，私共広土会会員としては，常時温存保持したいものです。

現在の土木事業の目的は，国土，都市開発のみでなく，台風，地震など，自然の猛威，破壊から，人命を守る防災事業や自然環境の保全事業と，社会的要請が強まっています。又，国際問題としては，世界経済の発展に伴い徐々に顕在化した地球規模の環境破壊があります。

公共社会の発展と福祉の向上をめざし，意見の異なる者が共存する社会の広土会の一員として，貢献して行きたいと思います。

最後になりましたが，広土会の尚一層の発展と，会員皆々様方の益々のご健勝，ご活躍を祈念致します。

1989．８．30　広島県北支部結成大会

1995．12．16　親睦旅行　小牧グランドホテル

広島県東部支部　古谷秀次郎
卒業年：昭和44年第１期
住所：〒722-0052　広島県尾道市山波町2857－６
TEL・FAX：0848-37-7174
支部構成人数：95名
支部結成年月日：Ｈ７年10月７日
支部の領域：福山，尾道，三原近郊の県東部地域

「温故知新」

年月の過ぎ去るのは早いものです。いよいよ広土会も創立30周年を迎えます。振り返りますと，私は昭和44年卒業の第１期生ですので，そのまま30年間社会人としての年月を重ねたことに相成り，万感，新たなものがあります。

若い頃の私は仕事の生活の忙しさにかまけて，あるいは，職場の転勤なども重なって，とかく広土会活動に対して消極的だったことを今更ながら恥じております。

広土会がここまで育ったのは，会員一同の熱い思いも去ることながら，恩師の先生方並びに本部役員のたゆまないご指導のたまものと，心から感謝申し上げます。

我が広島県東部支部の今年度の総会は，先般，10月18日㈯～19日㈰の２日にかけて，広土会会長の皆田先生をはじめ本部役員の方のご臨席のもと，総勢40名弱で有意義に開催し，また，有志によるゴルフ大会も楽しく行いました。総会ではそれぞれ笑顔の輝かしい方，頭の輝かしい方，また，私のようにバブル景気の崩壊に合わせたかの如く，顔が経歴を語る者など，人生模様そのものと接することができました。目下，支部活動を１日も早く軌道に乗せるべく，幹事共々，焦り気味ですが，がんばり中です。

一方，巷では同窓会の集まりが一段と活発になってきている感じを受けます。○○大学○期生同窓会といったポスターをあっちこっちで見かけたり，外部での会議に出席しても，紹介の際などに出身校の話に水が向けられたりすることが多々あります。これは，いわゆる，いい意味での情報ネットワークの１つに同窓会の集まりを取り込み，互いに，より信頼のおける情報源として共有していこうとしているのではないでしょうか。

世の中の動きは，殊にリアルタイムな知恵が出せるか，どうかに生き残りがかかっているといっても過言ではないと思います。

正に，これからは広土会の発展と併せて，温故知新の精神で，これまで学んだ伝統的技術の理解と新しい現実的顧客ニーズの認識のもとに，明日への知恵を養うことが大事で，かつ，不可欠だと思う次第です。

今後共，ご指導の程をよろしくお願いいたします。

九州支部（設立準備中）　平川敏郎
卒業年：昭和45年２期
住所：870-0000　大分市三芳1239-1　協同エンジニアリング㈱
TEL：0975-45-2111

広土会発足30周年を迎える報をいただき当時の学生時代が懐かしく思い出されます。大学周辺は田，畑ばかりでぽつりぽつり在る民家の煙突からは，風呂焚きかカマドの薄黒い煙が立ち昇る風景があった時代でした。確か，私共が３年次の頃だったと思いますが，誰かの下宿（間借り）で歴史の浅い土木工学科を憂い，将来の布石として会誌の発刊を思い立ち，ガリ版刷りの広土会誌「第１号」を創刊した記憶があります。

私には編集委員の方から九州支部長としての原稿依頼でしたが，実際には未だ支部は発足できてはいません。手元にある資料から九州在住の広土会会員数を推計しますと，福岡県40名，佐賀県10名，長崎県15名，熊本県10名，鹿児島県20名，宮崎県15名，大分県30名で総計約140名となっています。現在の会員の人数の面では単独支部で発足可能ですが，現実的にはエリアが広く支部活動の面で九州支部一本化は無理と思われます。従って各々の県で支部を結成するか，又は福岡県支部，九州西部，南部，中部，等のブロック支部での発足が望ましいのではないでしょうか。九州在住会員の皆様この30周年を契機に，広土会の更なる発展のためにも，支部発足にご協力お願いいたします。

今年７月には広島で記念式典が盛大に開催されるようで，本部の皆様委員の方々にはお忙しい中深く感謝いたします。とりとめのない文面ですが，最後に30周年記念式典の成功をご祈願しますと共に，全国の広土会会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。

○岡山支部　青江邦男
（勤）岡山県岡山地方振興局　TEL 086-224-3141
（自）岡山市中牧705　TEL 086-228-0315

○鳥取支部　西藤正和
（勤）㈱サイトウ設計事務所　TEL 0857-31-4808
（自）鳥取市湖山町南３－360　TEL 0857-28-2594

○愛媛支部　鴻海茂彦
（勤）大成建設株式会社四国支店　TEL 089-934-1131
（自）松山市場の山７－８－５　TEL 089-977-5503

○山口支部　渡辺　勉
（勤）徳山市役所都市計画部街路課
TEL　0834-22-8446
（自）徳山市遠石町１－12－１
TEL　0834-21-1281

訃　　報

謹んでご冥福をお祈りいたします
- 大村　裕先生（広島工業大学土木工学科教授）
  平成９年１月26日（享年70才）
- 鈴木　誠先生（広島工業大学土木工学科講師）
  平成９年７月17日（享年38才）
- 大田　隆三氏（広土会関西支部長）
  平成９年６月５日（享年50才）

平成9年度の土木工学科「都市工学コース」の就職状況について

就職委員
水野　信二郎

今年から企業・大学間の就職協定が廃止されました。これに伴い，企業の求人活動が早まると共に６月で求人活動が大部分終了し，７月に最後の１名を募集する状況となりました。これに対し，４年次生の進路先希望の状況は始業式の段階では不十分であったと言わざるを得ません。進路決定が遅れると，結果的に就職戦線で不利となるので，現３年次生は早急に自分の進路を決定することが大切です。来年度も企業の求人活動は３月頃から始まるので，今の段階で進路先について十分両親と打合わせ，ゼミ教員と相談できる状態が望ましい。企業から求人要求がなくなった頃から，やっと就職活動に入る学生が毎年数人いるので特に注意しておきます。

建設系の来年度の求人状況は，公共事業が縮小された事に伴い，今年より厳しくなると予測されます。企業は肉体的・精神的に健康で明るく，明確な職業意識と仕事に対する積極性と真面目さを学生に求めています。逆に，就職に熱意がなく何時までも進路が定まらぬ学生は，結果的に自活の道を自ら狭める事になります。

次に，公務員試験合格者は年々減少しており，今年は特に厳しかった事を報告します。その理由は明らかで，公務員の募集定員が減少し競争率が増加しているのに，受験対策が不十分な為です。最近，国家公務員の総定員を削減する傾向が強まっているので，特別の受験強化対策なしに公務員試験に合格するのは難しいでしょう。更に今年の特徴は企業の入社試験が早く終了した為，公務員試験に失敗すると企業への就職の道が殆ど閉ざされた状況となった事です。

女子学生への求人数は残念ながら少なく，就職に関して女子学生は不利なので，ゼミ教員や就職委員と密接に連絡を取り，早めに意思決定することが望ましい。

最後に，本学大学院への進学希望者は昨年とほぼ同じであった。建設工学科では，新しい「ハイテク・リサーチ研究事業」が文部省から認可され，大学院生の研究活動の活性化に取組んでいる。基礎研究と高度技術の習得を希望する学生は是非本学大学院へ来てください。

平成９年度の進路内定状況(　)内は女子学生数　平成10年１月７日現在

求人企業数	求人数	在籍学生数
699	1169	103(4)

民間企業内定者数	大学院進学者数	大学院進学予定者数	公務員合格者数	進路未定者数
84（4）	9	3	4	3

平成９年度・建築工学コース学生の就職斡旋について

就職委員　佐藤　立美

今年は就職協定の廃止元年ということで，企業の求人活動は例年に比べ若干早まるだろうとの予測の下で学生へのガイダンスを進めていた。73名の建築工学コースの全学生に個人面談し各自の希望職種と適性に関する調査をしたのが，新学期間もない４月中旬でこの時点で既に60社を超える求人はあった。その後，予想以上に大手建設業を中心に急速に求人数が増え，結果的に本年度の全求人数の75％が５月中旬までに集中した。この結果，５月の連休前に23名，５月末日までには51名が応募手続きを完了した。この間の期間が短かったことで，対企業対学生双方への意思伝達に多忙を極め，他の仕事に回す時間が無いほどであり，中には十分な企業研究ができないまま受験する者もいたことは否めない。

企業の優秀な人材を早く採りたいための厳しい選考眼と，学生のいろんな意味での準備不足により，結果として一般企業を受験した64名中34名もが書類選考・学力試験・面接等で一度ならず不合格を体験し，当初の希望職種を変更した者も少なくない。合格通知は嬉々として伝えられるが，不合格となった学生へ結果とその理由を伝えるのは辛いものがある。更に，早急に次の企業を斡旋しなければならないのであるが，往々にしてこのような時に限って連絡が付かないことが多いことにも悩まされた。結果は自宅にくると思っている自宅で待機していた学生も多く，事実そのようにいわれている場合も多いが，実は大学に最も早く連絡が入るのである。

一方，建築設計を希望する学生の就職には全く手を焼いた。事務所の採用意図と学生の職業意識の大いなるズレは如何ともしがたい。一般企業への就職と同等に考えて対応したほとんどが良い結果となっていない。何度も失敗する内にこちらの言うことが理解できるのであるが，就職と就社の明確な区別が必要なことを理解させるのも大変である。

また，ほぼ就職戦線が終わりかけた７月初旬の大手建設業の連続倒産を皮切りに，各建設業の株価の急落が始まったが，既に内定していた学生の心の動揺は如何ばかりであったろうか。幸いにも学生の内定した企業はいずれも健在であり安堵している。

このような社会情勢の中にもかかわらず，建築工学コースへの求人は昨年に比べ企業の質・量共に向上しており，10月半ばで就職活動は全て終了する事ができ一安心である。

大学院進学は他大学を含め決定した者５名，更に来年再挑戦する者２名と進学希望者は昨年に比べ増加していることも嬉しいことである。

今年の進路・就職内定結果は様々な紆余曲折を経て，ほぼ満足できる結果となったと思っている。いずれにしても社会人への第一歩は決まった。多くの先輩達が一様に努力して得た信頼される技術者としての評価に向かって各自が成長されることを心より期待する。

また，先輩諸氏の厳しくも暖かいご指導等，功にお願いいたします。

工学部の変革について

建設工学科教授
中山　隆弘（工学部長）

都市銀行や大手証券会社さらには中堅ゼネコン等の倒産が続き，いまわが国には近年にはない不況感が漂っている。せめて，大学だけでも明るい話題を提供したい所ではあるが，残念ながら，経済界と同様，大学の将来も決して楽観は許されない。

その要因のひとつが18歳人口の減少である。また，受験生が大学を選ぶ場合の基準も相変わらず偏差値が支配的であり，その傾向は近い将来もそう大きくは変わりそうもない。したがって，少数の有力大学を除き他の多くの大学は高い基礎学力を持った学生を選ぶことが困難となり，これまでの大学の教育レベルを維持することが難しくなる。今後ますます厳しい状況になることは必至であり，常により良き大学を目指して変革に努める大学以外は，受験生がゼロという事態を迎えても決しておかしくないと言われている。

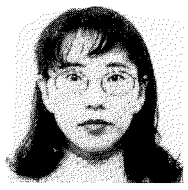
このような状況であるから，本学工学部においても，受験生にとっていま以上に魅力的な大学にするための早急な変革を迫られている。もちろん，これまでも，平成元年には電子，機械システムおよび土木の３専攻から成る工学研究科修士課程を，さらに，平成８年には同研究科に博士後期課程（知的機能科学専攻）を設置することによって，教育と研究を通じて社会に貢献しなければならない大学としての〈かたち〉を整えて，科学技術のレベルが著しく向上した今日でも社会に出て通用する技術者教育のできる大学であることを学外にアピールしてきた。

また，平成８年には，科学技術立国日本の掛け声の下に策定された科学技術基本立法を受けて文部省が創設した「私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に本学も応募し，「人工衛星高次利用に基づく環境・防災等社会基盤情報システムの開発」の構想が全国の55大学78研究センターの中から選ばれた22大学22センターのひとつに選定された。さらに画期的なこととしては，今年度，「超高速強塑性加工における変形機構の研究と新加工技術の開発」構想が，同じく文部省の「私立大学学術フロンティア整備事業」において，中国・四国地方の大学では唯一選ばれた。これらはいずれも本学の研究レベルの一端を国内に知らしめることができたものとして，他大学からもかなり評価されている。

このように，本学も近年，研究面においてはかなり社会にアピールできるまでになってはきたが，最近，工学部の全体的な印象として，高校の先生方や受験生に，やや古いイメージを与えていると聞くことが多くなった。

言うまでもなくイメージと実際の内容が一致しているとは限らず，必ずしも，そのような声のみを意識している訳ではないが，現状の各学科がすべて現代の技術社会あるいはモノが満ち溢れた時代にふさわしい学科であると断言することもできないので，新たなアイデンティティを持つ学科を創設すべく，現在，学科の再編成の検討を行っている。慎重に準備を進めて，近々，今以上に魅力ある名称とそれにふさわしい内容を持つ諸学科よりなる新生工学部の姿を皆さんに図っていきたいと考えている。

ただし，建設工学科に限れば，今年度文部省に届けを出して名称変更をしたばかりなので，検討の対象から外している。将来ともこの学科名称のままカリキュラムのみを見直してゆくのがいいのか，また新たな名称に変更するのが好ましいのか，現時点で断定はできない。幸い建設工学科の完成年度までにはまだ十分な時間的余裕がある。学科の中期的検討課題のひとつとして，卒業生のみなさんにもぜひ意見を聞かせていただきたい重要な問題である。



着任のあいさつ

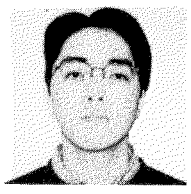
講師
福田由美子

平成７年１月に土木工学科建築工学コースの専任講師として着任しました。すでに２年が過ぎてしまいましたが，遅ればせながら新任のご挨拶をさせて頂きます。

こちらに来るまでは，熊本大学にて研究活動を行ってきました。専門は，建築計画ですが，主に，住まいや住環境という分野を対象としてきておりますので，都市計画の領域と重なるところも多々あります。また，建築・都市計画へのユーザー参加というテーマにもあわせて取り組んでおります。

地域密着型の研究・教育スタイルを旨としておりますが，広島においても，さまざまなヒトとモノとコトとの出会いによって，徐々にこの地域にも馴染みつつあります（と自分では感じているのですが…。）

人の生活にとって豊かな環境とはどんなものだろう，人が幸せと感じるのはどんな環境に身を置いている時だろう，人々に愛されるまちはどのようにしてつくられるのだろう…といったことを，日々考えているところです。



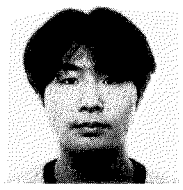
大学祭

広土会幹事長
土木工学科　都市工学コース
３年次生
武井　俊史

紙屋町は，合同庁舎・県庁などの行政機関，銀行・事業所等の業務機関，デパート・商店街等の商業施設，平和記念公園・広島城・広島市民球場等の文化・娯楽・観光施設などの都市機能の集積が最も高い場所です。今ここに広島では初の地下街が作られています。地下の工事というのは表面からはどのような事が行われているか分かり難いものです。そこで，我々広土会は実際に地下でどのような事が行われているのかを知るため，また一般の人にも知ってほしく，この紙屋町地下街について学科展を行いました。

パネル・模型などの展示，ビデオ上映などを中心に行いました。みんなが気になる形態や規模，そして施工手順や工法など多少突っ込んだ内容の展示も行いました。２日間の入場者数は300人程度で，大成功だったと思います。技術的な部分などは一般の人達には少し難しいかなと心配をしていましたが，学科展時のアンケートの結果，多くの人が理解出来ていたようでほっとしました。学科展に訪れてくれた人はみんな熱心に展示を見てくださり，嬉しく思いました。中には，「土木の仕事は生活する上で大変重要なものだと思います。がんばってくださいね。」と声をかけてくれた人もおり，改めて土木の仕事の素晴らしさを感じる事ができました。

我々広土会は，工大祭を通じて今後も地域に役立つ情報を発信していきたいと思います。今回の展示に当たり，多くの先生やＯＢの方々にご協力をいただき，誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。



建築見学会を終えて

広土会　副幹事長
土木工学科　建築工学コース
３年次生
橋本　智和

今回，ＨＥＡＲＴ　ＬＩＮＫＳ（高齢者能力活用センター）と白竜ドームの見学を行った。ＨＥＡＲＴＬＩＮＫＳでは，意匠・構造の両設計者に現地で説明してもらうという形で行い，設計者のその建物に対する考えにふれるという貴重な時間を得ることができたと思う。（しかし，現地での説明だけでは私達学生の知識では理解が難しい話もあり，準備として見学物の知識を学び，参加者にも与えておけばより深い理解を得ることができたと反省する。）

見学会を計画するにあたって，学生部会の３年を中心にやっていこうと決めた。しかし，今ふりかえってみると，目的を決める時はサポートしてもらった先輩に頼り，計画は自分勝手な問題点ばかりで御協力していただいた佐藤先生の助言と御指導がなければ，実行は難しかったと思う。計画・実行の難しさと経験・認識不足を実感させられた。今回感じ，反省したことを次回そして後輩へ伝えていき，これからも見学会に限らず，より良いものを計画・実行していきたいと思う。

最後に，佐藤先生には終始学生が主であるという方針で御指導いただき，当日の引率までしていただいたことに改めて深く感謝申し上げます。

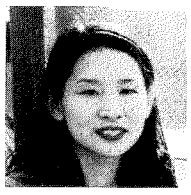
建築設計競技会

土木工学科　建築工学コース
４年次生
春日　琢磨

昨年の五三会主催の設計競技会のテーマは都市の遊場というものでした。それに対して我々が提案したのは，原爆ドームを前に世の中の進歩のスピードからはなれ元安川の流れに身をまかせ浮かぶ四角いいかだのような空間でした。結果的に我々の案は優秀賞に選ばれたのですが，正直なところ提出した時には我々にはまったく自信がありませんでした。五三会の設計競技会は毎回（？）公開審査なので他の人の案をすべて見ることができるのですが，他の案と比べ我々の案は一番単純，良くいえばすなおに広島らしさ，広島市という都市を表現していたと感じました。審査された西宮先生もそこの所を評価されたと思います。

話が前後しますが，我々はこの設計競技会に８人で参加しました。少々多い人数でしたが，２作品出品し１作品賞を取ることができました。８人でしたので提出日ぎりぎりまで案がまとまらず，優秀賞をとった作品は確か１日で仕上げたと思います。最後の１日は８人でＡ１ケントに同時に描き込んでいきましたが，その風景は今思えば異様だったと思います。その作品はＡ１いっぱいに元安川周辺をえんぴつで描き込んだものでしたが，なかなか迫力のある図面でした。この手描きのパースがまた我々のコンセプトと良く合ったのだと思います。えんぴつの粉で手を黒くして描いたのをおぼえています。

８人で１週間ぐらい集まり進めていった設計競技会でしたが，４転５転…８転ぐらい案が変わっていきながらだんだんと案が固まっていくわけですがその過程は人数が多いだけに複雑に多様に変化していくので楽しかったです。また公開審査なので他の案と自分の案をじっくり見比べられる，貴重な機会なので３年生にはとても良いコンペだと思います。今年の設計競技会には参加しませんでしたがゼミの後輩が出品して佳作でしたが入選しました。しかし今回は昨年よりも出品数も多くまた大変質が上がっていたように感じます。土木工学科の中の建築コースという設計の授業が他の建築学科よりとても少ない中，五三会の設計競技会は他の建築を勉強している人々とふれることのできるとても良い機会だと思います。



見学会を終えて

土木工学科　建築工学コース
３年次生
古家　慎子

平成９年12月７(日)，土木工学科建築工学コースの見学会が行われた。意匠，構造とも広島工業大学のＯＢである北野俊二さんと新田貴太男さんによって作られたという『ＨＥＡＲＴ　ＬＩＮＫＳ』（総領町高齢者能力活用センター）と，『白竜ドーム』を見学しました。見学会当日には，佐藤立美先生に加わり，北野さんと新田さんも参加して頂き，『ＨＥＡＲＴ　ＬＩＮＫＳ』の説明を詳しくして頂きました。『ＨＥＡＲＴ　ＬＩＮＫＳ』は，広島県山間部の人口2000人弱の町に作られた高齢者コミュニティ施設で，折板構造の薄い屋根による軽やかで開放的な空間を実現しています。新田さんは，この建て物の構造設計でＪＳＣＡ努力賞を受賞されています。この位の規模で受賞するのは，まれなことだそうです。

『白竜ドーム』は，竹中工務店によって作られたスポーツ施設で，その名の通り白竜の形をしていて屋根全体が膜構造になっています。

見学当日は雨が少し降っていましたが，資料片手に，先生や北野さん新田さんの説明を受ける事ができ，本当に良い経験となりました。

「第19期　10周年会」

昨年７月12日，広島工業大学卒業10年を機会に，広島市内の法華倶楽部にて同窓会を行いました。

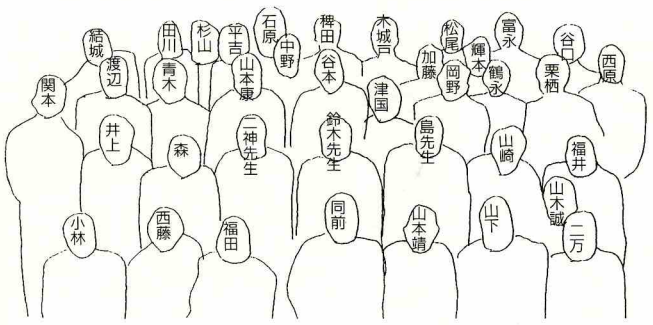
卒業時に，10年後の再会を約束以来，それぞれの道で活躍し，年々顔を合わす回数も減り，当初，どのくらいの人が参加してもらえるのか不安もありましたが，案内状を出し，連絡のつくところは直接呼びかけたところ，遠方は，関東や九州方面からの参加も得て，約40名が集まりました。私たちがお世話になった皆田先生，二神先生，島先生，鈴木先生もお招きし参加して頂きました。久々の再会ではじめは，名前を忘れてしまった人とも，会食し酒を酌み交わすうち，だんだんと10年前にタイムスリップ。

少しアルコールが入ったところで，自己紹介や，学生時代の思い出，近況などを楽しくスピーチしてもらいました。スピーチ中，大学時代のニックネームで声をかけられ，大爆笑となる一幕があったり，先生方からの久々のお言葉も頂きました。最後に全員で記念撮影。そしてみんなで万歳三唱を力強く行い，また10年後の再会を約束しました。

私たちが大学を卒業してからのこの10年は，バブル崩壊による景気回復が思うように進まず，建設業においても厳しい状況にありますが，会社組織の中堅として会社を支え，互いに不況を乗り越えて，今回参加できなかった人も，次回にはぜひ笑顔で再会したいと思います。

おわりに，私たちにご協力くださった方，ご参加くださった方，特に遠方からの方々に心よりお礼申し上げます。

土木19期生
卒業10周年委員会
杉山　敏夫
西原　成継
関本　　亨



「第４期25周年記念祝賀会」

広土会30周年おめでとうございます。

我々広工大土木４期は，昭和47年に120数名で卒業し，これまでに10年20年25年と３回集まっています。

20周年の時「これからは５年単位で集まろう」ということになり今回の25周年記念祝賀会を平成９年10月25日にホテルグランビアで開催しました。

今回は川﨑学長を始め５名の先生方が出席してくださりまた，県外からも多くの友が駆けつけてくれ，一次会は終了時間を過ぎても会を終えることが出来ないほど大盛況でした。

川﨑学長，中山学部長の両先生は在学当時おられなかったので今回初めてお会いする卒業生が多かったと思いますが鈴木先生，皆田先生，島先生と同様たのしく歓談できました。又先生方の御挨拶により最新大学情報も聞け母校への愛着を新たにしました。

祝賀会では在学当時から変わらぬ姿・若さでますますお元気な鈴木先生と歓談している友を見ると，どちらが先生か見分けが付かぬ光景も見受けられたり，25年ぶりに再会し名前を聞かないと分からない友が居たりして当時を懐かしく思い出し，まさに時が経つのを忘れて学生時代にタイムスリップした一時でした。

最後に次回30周年は21世紀最初の同窓会を全員で盛大に開催しようと再会を約束して二次会へと向かった。

土木４期25周年実行委員会
（荒谷，大政，本田，村上，和田）